

要望書

中央教育審議会教育課程部会・部会長殿

パソコン、インターネット、携帯、メール等の普及によるいわゆる近年のI.T.革命により、人間と人間の直接的接触、実体験の共有、情緒の交換は益々失われる傾向にある。この傾向は人間の生活をより効率的、合理的にするメリットを有するものの、その反面、人間が人間である由縁の共に生きる喜び、美しいものに触発される感動、生活することによる人生の充実感を喪失させる危険をはらんでいます。

特に幼児、若年期に形成されると言われる自然や人間に対する感性、心の豊かさを育む情緒等は、小中学等の初等中等教育に負う所が多いと考えられます。このような人間の感性を磨き、情緒を育むための美術（絵画、彫刻）、音楽等の教育は初等中等教育に不可欠な部分をなしてきました。頭が固くなってしまった大人になってからではその教育には効果を期待できません。

この度、これらの美術、音楽等の科目を必須からはずし、選択科目へ移す動きがあると聞きました。この動きは、(社)日本建築学会、(社)日本土木学会：景観・デザイン委員会、日本デザイン学会の活動から見ても看過することが出来ません。我々は都市空間、居住空間、道路、河川、橋などのインフラストラクチャー、車、家電製品などの生活用具のデザイン水準の向上を通して生活環境の質を高め、豊かな日本の実現、あるいは平成十六年公布の「景観法」が目指す美しい国土の実現に寄与すべく活動しています。そのデザイン力の基となる感性、美しい建物、環境、風景を感じ取る情緒の育成こそは、初等中等教育に負う所大であり、他に代替できるものはありません。

感性を磨き、情緒を育む美術、音楽等の科目の必須存続を要望いたします。

平成十八年一月

(社)日本建築学会 建築計画委員会
委員長 服部岑生(千葉大学教授)

(社)土木学会 景観・デザイン委員会
委員長 篠原 修(東京大学教授)

日本デザイン学会
会長 杉山和雄(千葉大学教授)